

「信州の北斎 阿波の写楽」

(第二十八回)

阿波の夏の風物詩「阿波踊り」が終わった後、所用のため長野県を訪れた。四季を通じて多くの観光客を引き寄せる。

千曲川に沿った文化地域は「北信濃河東文化観光圏」と呼ばれ、

計30以上の博物館や美術館が続く。その

の中心にあるのが小布施町。長野オリンピックに引き続き「国際北斎会議」が開催された街だ。

葛飾北斎はまず

美人風俗絵師として

頭角を現し、70歳

代で傑作「富獄三十六

景」を世に送り出した。

歴史的な肉筆画や天井絵

を目の前で鑑賞できた北斎記

念館。85歳のとき半年かけて制

作された「龍・鳳凰」には躍動感

が溢れ、その目には魂が入っているかのようだった。北斎の芸術や

人生に対するこだわりは凄

い。

同館の完成には、彼を支えた豪商で文化人の高井鴻山の子孫が尽力したという。

浮世絵と言えば、思い出すの

が歌麿、北斎、広重、それに写楽。

天才絵師、東洲斎写楽には大

きな謎がある。いったい写

楽とは誰だったのか？歌

麿、十返舎九九、日本で

初めて西洋油絵を描

いた平賀源内など、

数十人にも上る可

能性。現在最も有

力な説が「八丁堀

にあった阿波藩邸

に勤めていた斎藤

十郎兵衛」である。

信州が北斎なら、阿

波は写楽だろう。時

代長編「写楽 大江

戸の華」も出版され、

今後の盛り上がりに期

待したい。

それにしても、今の日本は

住みにくい。以前には考えられな

かった事件の数々。まさに「憂き

世」と言えるだろう。何か浮き

浮きすることに巡り会いたいの

です。 (医学博士・内科医師)

健康のススメ

板東 浩